

「幸手を知り尽くす男達」吉野修&野藤正吉が、野田幸手園で春の宙釣り&底釣りをレクチャー

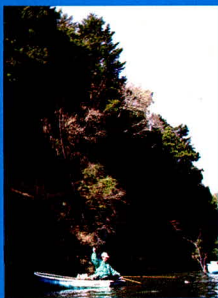
12 特集 春の管理釣り場 宙&底

COLOR (カラー)

- 6 FIELD PHOTO REPEAT
大落古利根川(埼玉県)
- 8 ビン沼川(埼玉県)
- 21 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出会い旅… **へらぶな浪漫街道**
《第十六回》冬の和歌山・紀ノ川で、春を感じる「一枚の価値」。
- 27 **新連載** 戦い続ける男、泣きへら鮒、年間タイトルへの挑戦。小池忠教 激闘の軌跡
《第1戦》2月例会:清遊湖
- 33 生井澤 聡&山中いつ子の**佐原水郷の四季**
《其の4》短時間だったが入れ食いの泪川(与田浦最東端)
- 39 **新連載** 獲れるミスターGが一肌脱ぎましょ。棚網 久 あなたの夢を叶えます。
《第1回》長竿を振ってみたい! ゲスト:栗田浩晃さん 鬼東沼
原始釣人・稲毛利夫&賞果釣人・モロちゃんの純野釣り探求記!
44,146 **アタリをちょーだい!!**
《Vol.4》御行沼/無名の池/上沼/下沼/馬喰沼(埼玉県滑川町)
- 46 **国際つり博2004**
- 118 **竹とともに生きる。**
《第8回》「恵匠」作者 松本晃伺
- 122 **好きです! へら鮒釣り!**
《今月の釣り人》日本へら鮒釣り研究会 新広報部長 遠藤克己さん
- 125 **新連載** 若き[splasher]、あらゆるフィールドを楽しむ!!
杉山達也の**SPLASH BEAT III**
《Vol.1》バクバクだぜっ! 厚木へら鮒センター!!
- 130 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!?!」
《Vol.16》伊藤さとしの「ダブルレンジ段底」第二弾
- 134 熱血釣り女・吉川ひとみがい! 「へらってヤバイわっ!!」
《第22回》根性試し…!? 「なないどべら」を釣れ!!
- 138 列島縦断 旅するカメラ
《群馬県PART IIの④》富岡市周辺 鍋川・多胡橋付近ほか
- 141 西日本川釣り紀行 北川穂積
《第16回》笹ヶ瀬川(岡山県)
- 144 頑固一徹! 自分の釣りを貫き通す男
《今月の釣り人》釣った時のイメージを追い続ける男。 関和哲夫さん
- 177 **新連載** 名手帰還。野釣りファン、お待たせ!!
戸張誠 **野釣り道場**
《第1回》【初春の豊英湖】
- 183 岡田 清 **Deep Side Angle**
《Vol.7》【プライベート・トレーニング】 富里乃堰
- 188 FIELD PHOTO REPEAT
久喜菖蒲公園・昭和池(埼玉県)
- 190 **釣りクラブ見参!**
川連クラブ(金山湖HC)
- 192 **フィッシングレディ**
《今月のレディ》小林敦子さん 清久西池(埼玉県)

MONOCHROME (モノクロ)

- 50 **今月の要チェックフィールド** 編集部
- ★**エリアレポート**
- 52 横武クリーク公園(佐賀県) 河口正伸
- 54 柴山潟(石川県) 山本一朗
- 55 寺口つり池(奈良県) 前田誠志
- 56 戸田水郷・丸池(岐阜県) 後藤 誠
- 57 **こだわりの店・黒べゑ提供 お年玉プレゼント当選者発表**
- 58 **あらいしのぶの始めてみようよ、へら鮒釣り**
《第12回》釣り場ではどんなものが必要なの…その2
- 62 **トーナメンター小林恭之が挑む! 竿頭までぶっ飛ばせ!!**
《第4回》まこと大池25周年記念大会
- 66 **NHCスピリット**
《Vol.7》'03年NHC全国大会覇者・富安大祐 in 清遊湖 II
- 73 **江成公隆のトーナメンター、復活への道。**
《Vol.22》トーナメント参戦編スタート! 隼人大池月例会
- 82 **そんなモジリにダマされて… 天野正由**
《その4》春の扉 相模川・弁天のジャリ穴~ピン沼川
- 88 **水辺のプラネタリウム 吉本亜土**
《今月の星空》「名人戦」
- 93 **元気が出るへら鮒 西田美明**
《第16回》「春を探しに北へ」の巻
- 98 **最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 高橋謙司**
《第十五話》今月の指令:我が党の実力を天下に知らしめよ!!
- 102 **野田幸手園新聞**
- 104 **ワクワク管理釣り場情報**
- 108 **小売店情報**
- 150 **竹竿&合成竿で未開の釣り場を楽しむ! オデコバンザイ!?**
《その4》主水池(千葉県松戸市)
- 156 **関東周辺 主要釣り場 舟宿一覧**
- ★**へら鮒BOX**
- 157 里ちゃんの新米編集長雑記
- 158 情報発信基地
- 160 ボイス
- 168 コラム『夢中と書いて夢の中』伝道師P
- 169 **新コラム** 『日研だより』日研広報部長・遠藤克己
- 170 **新コラム** 『へら狂おやじと呼ばないで』白石和弘
- 171 トピックス クラブ50 2003年度成績発表!
- 172 釣果予想クイズ
- 174 プレゼント発表
- 175 広告索引
- 176 編集後記



●今月の表紙●

angler: 戸張 誠
field: 豊英湖
photo: 本誌・田中里史
layout: 本誌・田中里史

STAFF

●Producer
根本良一

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸富一秋
根本百合子
伊藤小百合

●Planner
〈オフィス・えぶ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の

トーナメント、 復活への道。

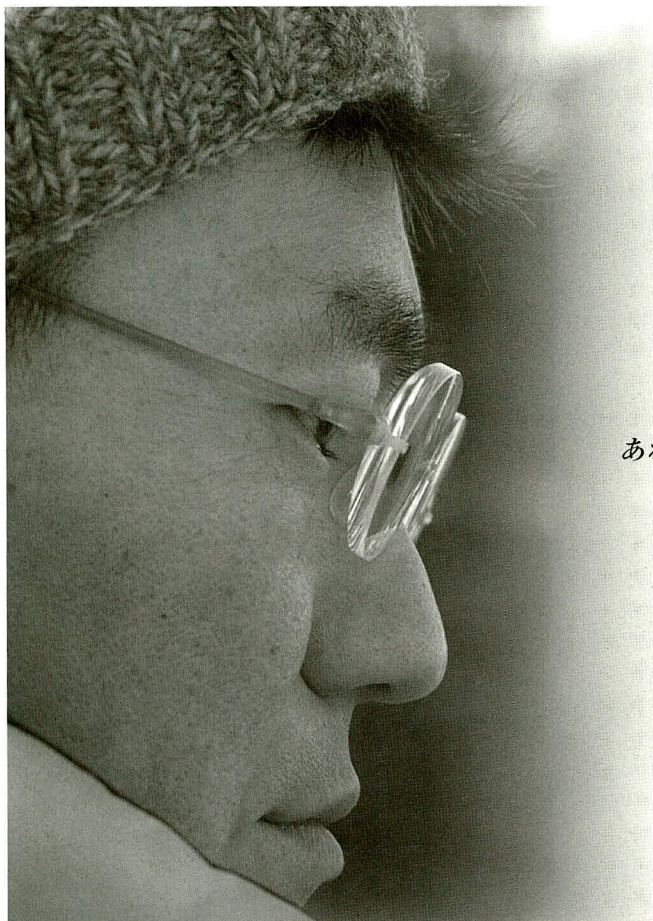
text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web連動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

「一歩前へ！」

〈Vol.22〉

トーナメント参戦編スタート！

隼人大池月例大会



今月から、いよいよ江成のトーナメント参戦が始まる。
22回目を迎えて、「トーナメント復活への道。」も、
いよいよこれからが本当のスタートとなるのだ。
江成もやる気満々、ギンギンに漲ってるはずだ…！

「近場の釣り堀なんかどう？」

江成からのリクエストだった…。

甘い！

昔とった杵柄「得意の浅いタナ」で、
しかも、甘めの対戦者達に交じって、

あわよくば上位入賞を目論んでいることはミエミエじゃない！

里はそんなに甘くはないでっせ、アニキ！

いいでしょう。特別チビシ〜処へ御案内しましょう！

by里ちゃん

前日まで、江成には試合会場を知らせなかった。
それは、あらゆる状況に対応できてはじめて本物の
トーナメントであるからだ。今後江成には、常に
万全の体制を整えておいてもらわないと困る。
「隼人大池月例大会。里が江成に用意した舞台だ。
日本一のスーパージャンボを謳う同池のこと、冬は
ハスせばオデコの危険もある。さっそく電話だ！」
江…「マジ？」
里…「マジです♡(グフフ)」
江…「うーん、道忘れちゃったよあ…。また岩槻一
Cで待ち合わせでござい。」
里…「はあ？ 昨年NHCCでさんざん通ったじゃな
いっすかあ？」
江…「だよなあ。でも全く思い出せないぞ？ 初期
化しちゃったかなあ？…笑ってよ！」
里…「……」
江…「待ち合わせは6時でいいよね。じゃー！」
里…「じゃ！ってアニキ、何かないんすか？ 隼人
ですよ隼人？」
江…「だから？ …作戦とか？」
里…「まあそうですねえ、心構えとかそういうところ
を色々とか聞かせて下さいよ。」
江…「そんなもん何もないよ。竿に仕掛けも付いて
ないし、ハリだつて現場結びだし。」
里…「ちょっと待って下さいよオ！ 万全の体勢で
臨む筈じゃなかったんすかっ！」
江…「そりゃ分かってるけどさあ、ここんとこ仕事
終わんのが遅くて…ま、これが現実って感じ？ 普
通っぽいリアリティがあつていいじゃない？」
里…「そこを突いてくるのはスルイような気がしま
すが…まあいいか。勝手にして下さいな！」
江…「ところで里ちゃん、ウドン頼むよ♪・ド・ン
♡」
里…「い・や・で・す！」
江…「ケチー！！！」

電話を切った後、里は無性に腹が立った。
「デロっちまえっ！」





浅いタナマ

2月7日(土)。準人大池月例会。開始20分前。ウジで決まった釣り座に陣取り、真剣な顔つきで仕掛けを作る江成がいた。どんな作戦で臨むのか聞こえず、里が傍へ寄っても、全くこちらに気が付かない。「(りゃ)マジモードだ。ちょっと楽しみにさせてきたぞ！」

横顔を撮ろうとシャッターを押した時、江成は初めてこちらに気が付いた。

江：「おお」

里：「アニキ、気合い入ってるようですねえ。かなり真剣な顔ですよ！」

江：「いやさあ、ウキがなくて困っちゃったなあと思ってるね」

里：「ハア？ 何スカソレエ！」

江：「浅いタナ用のちっさいウキ、作ろう作ろうと思っただけなんだよ、結局作ってないんだよなあ。これじゃデカいよね？ ねっ？」

里：「うたたくう！ じゃあ僕のウキを貸しましょうか？ 今日だけですからねっ！」

隣人：「あのお。今日は底釣り大会なんですけど…」

里：「マイガツ！」

江：「……。里ちゃんよ、聞いてねえソッ！」

里：「す、すみません(汗)!!」

江：「こっちは前日まで場所も知らされてないんだからさあ、情報収集は里ちゃんの役目だぞ？ ましてや大会ルールなんて情報収集のウチに入んないぜ？」

里：「……どうせ一週間前に知らせたって情報収集なんかしやしないくせに……」

江：「なんか言った？」

里：「いえ、別に」

江：「ちょっとタイムロスになりそうだけど、底釣りなら好都合だな。ウキもちゃんとあるし。タックルに不安があると、釣りに集中出来ないからね。それに底釣りならオレには『北城理論』があるしな！」

里：「……よく言いますよ。今日が自由釣り大会だったらどうするつもりだったんだか……」

江：「ん？ よく聞こえない？」

里：「へーへー」

里ちゃん、デコナ前！

江成の取材の場合、締め切りはヒヤヒヤのもですが、原稿そのものは安心して任せられるので(？)、里も目一杯釣りを楽しめちゃったりなんかするんですが、この日は全然釣れなかったんですよ、ホントに。カメラワークもあるにはあったものの、中断した時間はほんの僅か。それでも里はオデコになっちゃうかと思いましたが。へらへらしているのは里だと思えます。なんとなく気配はありましたし。そんな中、アニキはさかんにアワセをくれてました。アニキのところは場所も良かったんですが(？)、かすかな気配やサワリから、無理矢理(？)アタリへと繋げていくプロセスには、なかなか見応えあるものがありました。結果的には里2枚、江成8枚ということ、たったの6枚差なんですけど、この時期の6枚の価値は、読者の皆さんならお分かりいただけることと思います。

この企画の主旨から、あまり江成のノーガキを載せるつもりはないんですが、「江成は釣りながら何を考えていたのか」という点は書いてもらわないと記事になりません。結果的には一般的なへら釣りの記事と同じく、「時間の経過にともなう対応の記録」ということになってしまっていますが、とりあえず読んでみて下さい。これがなかなか面白いんですよ。江成がよく言う、「経験(釣行回数)がないなら、頭(理論)で釣ればいい」ということがどういう事なのかよく分かると思いますし、江成のようになんの実績のない一般人(？)でも、ここまで考えて釣っているんだという驚きを味わっていただけたらと思います。ですから「またノーガキこきやがって！」という反応ではなく、「江成という釣り人は、この日一日こんな事を考えながら釣ったんだな」というふうな感じで欲しいと思います。江成はインストラクターでもなければ現役バリバリのトーナメントでもタイトルホルダーでもありません。正しいとか間違っているとかがそういう問題じゃないんです。月イチ釣りの読者の皆さんが、トーナメントで上位を目指すとしたら、今回の江成の姿勢はきつと皆さんの参考になる筈。里はそう確信しているのです。

(以下、江成にバトンタッチ！)

午前中の僕は、昼休みになるちょっと前まで両ダンゴで通っていた。両ダンゴとはいっても、夏冬インのグルダンゴの事だが、オデコも出かねない予想される厳しい状況に選択するのは驚いてしまう人も多いと思う。実際に隣の釣り人も采れていたし、里ちゃんも驚いていた。どこの釣り場でも二月は厳しい。しかし僕だって釣り始めからいきなり両ダンゴをかましていたわけじゃない。バラケにグルテンから入った。ちなみに、底釣り大会の規定は、タナ上バリトントン以上、段差10cm以内。

事前の情報収集はこれといってしなかったが、昨年のNHCCのイメージは引きずっていた。「華人のへらは、底よりちょっと上にツイている」そんなイメージ。岡田君が6杯でとった戦法「長ハリス」を参考に、55-62cmというハリスをセッティングして第1投を送った。

案の定、3投目でいきなり高い位置でのサワリ。もちろん完全底釣り規定だという事は承知しているの、落ち込みでアタリを取るつもりはない。というよりそれ以降、落ち込みではほとんどアタリとして見られる動きにはならなかったのだが、さらに悪いことにナジんでからの反応も全くないのだ。予想通り元々への位置が高かったのか、自分が打った第1投目から上スラせたのかは不明だが、とにかくへらはその位置にいる事は分かった。落下中のエサには反応しているわけだから、後はさらに下を向かせることが出来ればそれでいい。「それでいい」と口で言うのは簡単だが、コレがなかなか難しい。へらがこちらの思うように動いてくれるとは限らないからだ。

例えば今回のケースでウワズリという受け止め方をした場合でも、ウキを大きくしたりハリスを詰めたりして「セッティングで抑える」方法もあれば、エサをシメてタナまで届けるエサの残量を増やしてやるという方法もある。へらの状態によっては全く追わなくなってしまうたり、逆にピンポンになってしまうりするだろう。

さすがにこの時期では「セッティングで抑える」方法をとる気は起きず、ピンポンになるという事も

考えにくいので、バラケをハリ付けする際に、手揉みを一段階増やしてみた。するとしばらくして、ナジみ切ったからのサワリが出た。時間の経過と共にへらが落ち着いたのかも知れないが、そこら辺はまあ自己満足でいいんじゃないだろうか。都合良く解釈しておこう。あまりにも受け止め方がズレてしまっている、その先で手詰まりになってしまおうが、とにかく何かしらのアクションを起こして出た反応を足掛かりにしなければ次のステップは見えてこない。全ては積み重ねであり、一足飛びにはいかないのだ。経験が少なければ少ない程、思考の過程は一步一步慎重にならざるを得ない。とはいえ、自分の考えつく全てを一から試している日は暮れてしまう。暮れなかつたとしても、最初と最後で状態は変わってしまった。消去法という言葉は

あるが、頭の中で選択肢を減らす事は可能だと信じたい。
僕が最近理想としているのは、優勝でも竿頭をとることもなく、一日最後まで思考が途切れないでいられる事。思考の過程で大きなミスがあれば、途中から「何をやっていいのかわからない」という事態に陥る。これは辛い。結果として一番釣れる釣りではない方向を追ってしまったとしても、僕はなるべく最後までへらと話をしたいのだ。
エサ打ちを繰り返すたびに、タナでのサワリは強まってきた。やがて弱いながらもアタリと呼べる動きに変わる。
最初に僕の竿を曲げたのは、アッパーのスレだった。エサが持っていないのか…。ちょっと待て。スレたのは上ハリじゃないか！

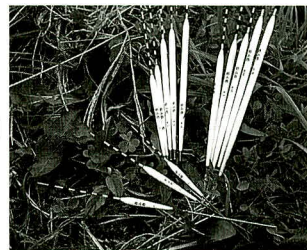


競技派からのんびり派まで、すべての釣り人に使って欲しい...

へら浮子 杉山作

浅ダナスタイル
【パートI・パートII・ワイド・ムク】
(各1本4,500円)

フリースタイル
深宙スタイル
(各1本5,000円)



取り扱い店〈五十音順〉

埼玉・越谷 かわせみ (☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (☎03-3499-5025)
埼玉・入間 三水堂つり具店 (☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその (☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人 (☎044-287-7470)
東京・吉祥寺 丸勝 (☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (☎0428-22-2467)

今までのアタリがバラケに対するものだとしたら、その弱さも納得出来る。ギリギリのところ持たない。持っていたとしても、その重さゆえの大きい吸い込み抵抗。カラッパでしかない筈だ。ではなぜ、グルテンには反応してくれないのか？

「クワセ」としてグルテンを用いているのは人間側の思い込みというか都合だが、北城理論でいけば水流に乗って軽いエサであるグルテンは、食い渋ったへらにとって吸い込みやすい筈だ。しかし今回のへらはグルテンよりもバラケの方を食いたい気分だったのだろうか？ そう結論付けて、両ダンゴへ変更する人もいるかもしれない。結果的には僕と同じ選択となるが、僕の理由はこうだ。「グルテンが底まで全くもっていないから、アタれない」。水深3メートル以上の水底で、へらがバラケかグルテンかで選別しているとはどうしても思えない。暗くて見えない筈だし、へらは元々目も悪い。匂い？ 段差の小さい底釣りでは、バラケもグルテンもほぼ同じ場所に転がっている筈だ。スラシを多くとる事でいくらかは上エサと下エサの距離が広がるとしても、下バリがバラケた粒子の上に乗っている可能性は高い。そんな状態でグルテンにだけ反応しないという事があり得るだろうか？ 水槽の金魚に与えれば、どちらもあるで食べる「エサ」なのだ。僕は市販されているエサで、へらが食わなかったり嫌ったりするものは一つとしてないと考えているので（ちなみに以前金魚にウドンを与えた事があるが、そのときは口に入れたもののすぐに吐き出した。ウドンは粒子もしくは芯に似せた疑似エサであって、「お魚のごは」ではないようだ）、下バリにグルテンがついていないという結論に達したのである。普通に考えればここで、「グルテンをもっと持たせる」という方向を追うのが筋だろう。この時僕が使っていたのは「わたグル」の標準水量作り。これを手揉み、もしくはエア抜き……？

グルテンはなかなかやっかいなエサで、吸い込みやすいというメリットを生み出すその軽さが、時にデメリットも生む。低活性なへらでも追えるその軽さは、持ち過ぎれば厳寒期であってもピンポンを誘発してしまう恐れがあるのだ。

もしかするとこの日は、「わたグル」では「持ち過ぎで持たなかった」のかも知れない。それに加えて、最大落差124mm(62x2)のハリス落ち込み。着

開く素材と持つ素材をうまく組み合わせ、ちょうどの開きのグルテンを作る事が出来れば、ピンポンをかわして早いアタリで寄せられる可能性はあった。しかしなかなか難しい。しかも今回は完全底釣り規定。高い位置でのサワリも一段と強まっているのを見た僕は、ハマりそうなグルテンを捨て、ダンゴを選択することにした。ここで10時。まだオデコだ。



命名！「段底フラスコ」(?)

バラケにウドンのセットで、すでに1枚をモノにして隣の釣りが呆れる中、僕は自信满满で両ダンゴを打ち返した。その甲斐あって、お昼の休憩までに3枚をモノにする事が出来た。釣れたのはキ口級を含む大型ばかり。どおりで口を使わない筈だ。食いがなくてもいるだけでエサの煽られ具合は半端ではないだろう。

再開後はすぐにアタリは戻り、簡単に1枚釣れた。このままいけば優勝かと思ったが、そんなにうまくいくわけではない。明らかに上でのサワリが減り、比例してタナでのアタリも激減した。

ここで僕は大きな判断ミスをする。活性が落ちたと読んだのだ。吸い込みの力も弱くなり、上でイタスラするへらも減った事から、バラケにグルテンへ戻した。ちょっと心配だったので、ハリスも若干詰めた。結果的にはこれで2枚追加することが出来たのだが、どうも納得がいかない。早いアタリと待ちが交互に訪れる。これではリズムにならない。釣れないパターンだ。どんなに小さな動きも見逃すまいと、大きくスラして思いきり振り切り、ラインにテンションをかける。にも関わらずナジミが浅い？なんと沖の方が浅かったのだ。

そんな事もあって、完全に冷静さを欠いていた。「早いアタリと待ちが交互に訪れる」のは、食い気のあるへらが薄くなっている証拠だという事を完全に見落としていた。アタリが全くなくなってしまったわけではなかったが、僕は相手にしてはいけないへらを相手にしていたのかも知れない。残念ながら「僕の釣り」では、ここで手詰まり。独力ではラストまで辿り着けなかった。

競技終了1時間ほど前から、ある特定の人たちが目立って竿を絞るようになってきた。バラケにウドン組だ。「ウドンが食うエサ！」とは思わなかったが、ついに究極の粒子酔いに突入したのかと思った。もしそうであれば、開いてしまうダンゴやグルテンではお話にならない。図形がキモになってくる。

前半不調だった両ウドンの人は今頃さぞイライラかと思いきや、さっぱりアワセている気配がない。はて、これは一体どうしたことか？ 究極の粒子酔

いであれば、散らす粒子が少なければ少ない程いい筈だが……。よくよく見渡してみれば、G杯であれだけ見せつけられた筈の両ウドンにも関わらず、選択している常連さんが少なすぎる……。

里ちゃんから仕入れた唯一の情報では、浅いタナが段底という話だった。どちらも今回の大会規定ではNGだが、「段底」で気が付いた。北城氏曰く、「食い気のあるへらをも1枚でも人より多く寄せさせるために上バラケが宙にあるというだけで、段底はあくまでも底釣りの一種、宙のセットとは違う」のだ。

今回は大会規定で上バリも底に付いていなければならなかった。波々日頃の段底を捨てた釣り人も多かったろう。もしかするといつもと同じ感覚のまま、上バリも底に付けていただけの人もいるかもしれない。だが効果はあった。誰も宙でバラケを吊るして見ない以上、全く「普通の」一段底と同じ寄せ効果は得られたのだ。究極の粒子酔いであれば「粒子感」だけでなく、「距離感」も必要になってくる筈だが、見たところ段差は大きくなかった。やはり「宙釣りの的なセット」ではなかったのだ。

……、そんな事より何より、釣っている人は、みんなバラケがデカイ！ とでもパラソルの底とは思えないほど、デカイのだ……。見落としていた。完全に寄せ負けた。降参。

残り30分。大慌てでダンゴタッチのバラケを水で戻し、とろすイミと沈バラケを大量投入。クワセはグルテンのまま。調子に乗り過ぎてウキが踊り出すも、2枚追約！ そして終了。

トータル8枚で8位。「ええっ？ マジ？ そんなに上位なの？ 渋かったんですねえ……」というのが直後の感想だった。



▲江成、8位入賞でVサイン！(ちなみに、賞品は圏外)
▶里ちゃん、2枚で憤死！(しかし、順位賞でちゃっかり賞金ゲッチュ)



70点。もう一回、同じ地合をやったら12枚くらいは釣れそうなので、100点×8/12という計算です。段底フラス(?)に気づけたってのが嬉しいのでフラス3点。よくわかんない基準ですけど(笑)。今度はぜひ狙って使ってみたいですね。前半のタンゴは悔いのない判断と感づいています。

宙ではアマイバラケで組み立てる釣りに対する違和感ってのが大分薄れてきた僕ですが、底に関しては今も考えたこともありませんでした。昔教わった通りの「置きバラケ」ってやつですね。抑え目のタツチの小バラケと、ハリを上から刺してチモトをあまりおさえないといい。でも段底ならアマ目のエサも平気で使えてましたから、「段底は底釣り」だと北城先生に教わったにも関わらず、やっぱり深宙の延長だということ意識があったって事なんじゃないかかねえ。。。

そういえば、先月号の「田辺哲男のそれって...」で、伊藤さんと私も言ってたっけ。「段底は底釣りである」という観点から捉えよう」って。

もちろんアマめっていったって、浅いタナのように上からバラバラ開いては困りますが、持つエサを持たないように使う」わけですが。ってコレ、我がスワラッシャー杉山ハバのセリフですネ(笑)。なにげに「へら鮎」オタクの僕だったりする。(里ちゃんの文章術にはめらられてる?)

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへの鮎会
- 2.ぐりへの鮎会
- 3.ぐりへら鮎会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の路入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

- 柴舟(東京都江戸川区)
03-3613-2727
- 佐伯釣具店(神奈川県川崎市)
044-911-3722
- SANSUI川づり館(東京都渋谷区)
03-3499-5025
- フィッシング中原(神奈川県川崎市)
044-711-8266
- 鮎仙人(神奈川県川崎市)
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

再びライターは里ちゃんにバトンタッチ!

単人大池では、「浅いタナ用のウキがない」などとはざいた江成。これから毎月トーナメントに参加するにあたって、一体どうするつもりなんじゃ〜!?

連載21回を数えた言わば準備期間中、江成が作った自作ウキ「三平作」はゼロ。つまり、歯抜け状態のまま...。でも「何やってたんだ!」とは言いません(笑)。「お仕事」に「家族サーブ」ですもんね。そんな江成をバックアップすべく、本多俊行氏(「本多作」作者、佐藤誠氏(「まこと」作者)が立ち上がった!

両氏は共に古くから江成の釣友であり、ウキ作りを趣味とする仲間でもある。

当面、江成は「本多作」「まこと」(もちろんどちらもレンタル♡)早く自分で作りなさいという愛のムチ♡と、自身の「三平作」の三本立てで戦っていく予定。アニキ、恵まれすぎでござい〜!

ちなみにこの三人、「マルキュークラブ対抗」出場へ向け新チームまで結成したとか。ノリノリだ! その名は、「自作自演」...。大暴れるのか?

*関東へら鮎釣研究会所属の大手、増田幸一氏の経営する釣具「三平」オリジナルへらウキ「三平」とは別のものです。江成の記憶が確かなら、以前に

「へら専科」のK氏を通じ、先方にはきちんとお話をしてあるのかなとか。

*もはや説明不要。あのOoee岡田清が愛用するトーナメント史上最強モデル。吉祥寺「丸勝」で手に入るが、アマチュア作者ゆえ、製作本数僅少。一部ではプレミア付きて出回っているとか? 江成とは超・小さい頃からの知り合い。

*マルキューフィールドテスターである新潟の小林康秀氏も大ファンで、モニターも務める。丁寧な作りで人気急上昇中のトーナメントモデルだ。全国的な知名度はまだ薄い感もあるが、これからブレイク必至のウキ。作者の佐藤誠氏は、実は各種トーナメントでチヨコチヨコと活躍している腕達者。しかもかなりのイケメンで、本人も(自称)人気急上昇中とか? そのうち写真で登場して頂こう。里も知っているが、ちよびり○○○な、素敵なお兄さんです。江成とちよびりこごうい付き合いらしい。こちらアマチュア作者ゆえに予約待ち多数。気になる方は小柳氏が主宰する「どじょうず」ホームページをチェック!

@自作自演からのお知らせ

現在たった3名の集まりですが、ゆくゆくは「自作ウキでトーナメントへ参戦」している人たちのサークルに育てたいと考えています(ホントかい?)。今までありそうでなかったサークルではないかと思えます。準備が整い次第、詳細を発表いたします。しばらくお待ち下さい。

《何年か先のクラブ対抗では、自作自演Zや自作自演RXが出演したりなんかして?》

というわけで、「トーナメント復活への道。」初試合は、なかなか上出来な結果が出て、江成本人も満悦の様子。見事に撃沈してもらい、絶望のドン底に叩き落とされた里ちゃんの狙いは、もちろんも崩れ去った...というより、見事に撃沈して絶望のドン底に叩き落とされたのは里ちゃんだったりののである。(シャレになんねー!) それにしても、あの「北城理論」がここまで身になってくるとは...。しかも、実戦で意外に冷静に組み立てていたのには驚いた。きつと興奮して頭の中真っ白になるんじゃないかと期待してたのに...。おそれいりやしたぜ、アニキ!

さて、来月はどこの試合に出場していたでしょうか...

あそこの月例会もいいし、あのマンモスクラブに便乗してもらおうもいい。(フフフ...)。今度は思いっきりコケて頂きますぜい!

もう少しで春。メジャートーナメントの予選も動き始める。時間はない。それまでに、江成は「試合動」を取り戻し、「復活への道」を華麗に駆け上がっていくことができるのか? その前に、釣りに行けるのか? とりあえずは、来月を乞う御期待!?

by里ちゃん

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける...

へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.460
2004 Apr

4

特集

春の管理釣り場 宙&底

「幸手を知り尽くす男達」

吉野修&野藤正吉が、
野田幸手園で春の宙釣り&底釣りをレクチャー

新連載

名手帰還。野釣りファン、お待ちせ!!

戸張誠 野釣り道場

●戦い続ける男、浅草へら鮎会、年間クイトルへの挑戦。

小池恵教 激闘の軌跡

●若き「splasher」、あらゆるフィールドを楽しむ!!

杉山達也 SPLASH BEAT III

●頼れるミスターGが一肌脱ぎましょう。

棚網 久 あなたの夢を叶えます。

新コラム

●広報部長・遠藤克己の「日研」コラム。

日研だより

●へら狂・白石和弘の面白コラム。

へら狂おやじと呼ばないで



昭和41年5月4日第3種郵便物認可
平成39年4月1日発行
第39巻第4号(毎月1日発行)



へら鮎祭り2004

熱戦、始まる!

一日中、全力で頑張る。競うことに、本気になる。喜びや悔しさで、頭の中が真っ白になる。
友人の手を握り、健闘を讃え合う…。普段は胸の奥にある、熱い思い。凝縮された時間が、トーナメントにはある。
今年も、戦いの場所は設定済み。皆さんのご参加を、お待ちしております。

第13回クラブ対抗へら鮎釣り選手権大会

決勝大会

10月11日(祝)

埼玉県羽生市 椎の木湖

(北海道予選)
7月11日(日)
北海道千歳市 追分池

(東北予選)
7月19日(祝)
山形県山形市 山形千石の池

(北信越予選)
6月20日(日)
新潟県聖籠町 新潟ひょうたん池

(近畿予選)
8月29日(日)
滋賀県近江八幡市 レークサイド水葦

(東北予選)
9月5日(日)
宮城県河南町 宮城弁天池

●(関東予選)
7月19日(祝)
埼玉県羽生市 羽生吉沼

●(関東予選)
4月29日(祝)
千葉県沼南町 清遊湖

●は関東予選となり、予選を通過したチームが8月29日(日)三和新池(茨城県)にて、関東代表決定戦を行います。

(九州予選)
7月11日・8月1日(日)
福岡県福岡市 和田中池
予選を通過したチームが8月8日(日)同池にて、九州代表決定戦を行います。

(中部予選)
7月31日(土)
愛知県蟹江町 佐屋川温泉前

第4回 チョーチン王座決定戦

5月30日(日) 千葉県野田市 野田幸手園

大会ごとの詳細は店頭チラシ・または<http://www.marukyu.com/>をご覧ください。



本社 桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 〒363-8509 四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053
TEL: (048) 728-0909(代) FAX: (048) 728-3909 TEL: (0877) 44-0909(代) FAX: (0877) 44-3909
大阪支店 大阪府寝屋川市桶根南町12-14 〒572-0811 九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0023
TEL: (072) 824-0909(代) FAX: (072) 825-0909 TEL: (0942) 82-0909(代) FAX: (0942) 83-0909

マルキュー・ホームページ
<http://www.marukyu.com/>
<http://www.marukyu.com/j>



定価 一〇〇〇円 本体九五二円